

講座だより



【第3回講師 古瀬浩史氏】

令和3年9月11日（土）に森林環境教育指導者養成講座の『養成コース第3回』を実施しました。第3回も新型コロナウイルス感染症対策としてオンラインでの実施となりました。第3回は『伝えるためのインタープリテーション』をテーマに、帝京科学大学の古瀬浩史氏を講師にお招きし、インタープリテーションの基本となる考え方や、インタープリターの役割についてご講義していただきました。たくさんの実習や体験が組み込まれており、オンラインでの実施ではありましたが学びの多い講座となりました。

【午前】伝える技術「インタープリテーション体験」

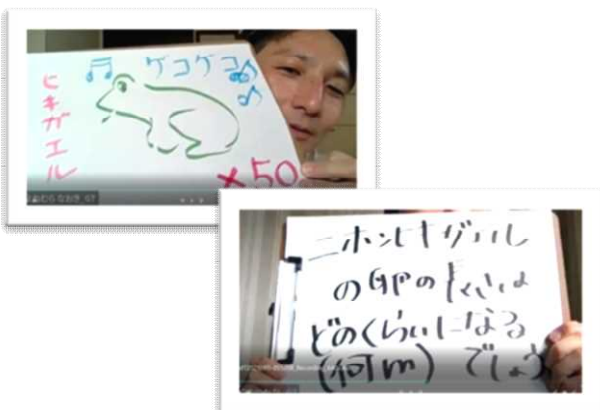
環境教育の現場では、参加者により良く伝えることが求められます。また指導者は単に情報を伝えるだけでなく、参加者が自ら気づいたり、発見したり、感動するよう導くことが大切です。講座の午前中は、そのために必要となる「インタープリテーション」という考え方や、インタープリターの役割について学びました。自己紹介ではキーワードを紙に書き、紙芝居のように見せながら話すことやストーリーを考えて伝えることで、より印象深く伝えることを体験しました。またメッセージを考え話すことの大切さを学びました。



【講師によるフィードバックの様子】

【午後】伝える技術「実技講習」

【実習の発表の様子】



午後は受講者が集めた葉っぱを使った実習を行いました。いきなり植物について専門用語で解説するのではなく、ゲームや体験を通して良く観察をさせることで参加者の意識をより葉っぱへ向けることができることを体験しました。また「一工夫実習」では、グループで与えられた課題文を上手に話すだけでなく、クイズなどを使って参加者と双方向のやり取りを入れることや、イラスト等の小道具を使い話すことに取り組みました。オンラインでのグループワークとなりましたが、参加者は積極的にコミュニケーションを取りながら、楽しく実習に取り組んでいました。

＜発行元＞